



国立精神・神経医療研究センター
バイオバンク

～次世代の医療のために～

NCNPバイオバンクに保管されている臨床試料および臨床情報について、以下の研究への払出・利活用を行いましたので実績を公開いたします。

【研究課題名】

血液バイオマーカーを用いた認知症検診モデルの構築

【研究責任者】

大町 佳永（国立精神・神経医療研究センター 病院 司法精神診療部）

【本研究の目的及び意義】

血液バイオマーカー（血液検査により脳のアミロイド β の蓄積度や神経障害の程度等を推測する指標）を用いた高齢者検診のニーズが高まっていますが、科学的エビデンスを蓄積し、倫理的な問題も解決した上で社会実装を進めていく必要があります。本研究では、認知機能検査（聞き取り検査、神経心理検査）と画像検査、血液バイオマーカーを組み合わせで診断を行い、認知症リスクの推定が可能かどうかを検証します。さらに、血液バイオマーカーを活用した認知症検診システムのモデルを構築し、有用性を実証します。

【対象疾患】

認知症、軽度認知症と診断された方、認知機能正常の方

【本研究に提供する試料・情報】

血液（血漿）

【研究期間】

提供後～2027年3月31日

【試料・情報等扱う機関】

国立長寿医療研究センター

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター バイオバンク
所属 メディカル・ゲノムセンター バイオリソース部